

2022年(令和4年)

赤目まちづくり委員会・市民センター



8月号

赤目まちづくり通信

発行/赤目まちづくり委員会(赤目市民センター) 〒518-0465名張市赤目町丈六238-1

E-mail: akame-ko@emachi-nabari.jp

TEL&FAX: 63-0329

コロナ第7波によるまちづくり活動について

赤目まちづくり委員会 会長 藤村純子

今年の梅雨は、早く明けましたが、日本のあちらこちらでは大雨による被害が多く出ています。当地域では、今のところ大きな被害は出ていませんが、いつどこで災害が発生するかわかりません。明日は我が身と考えて日々過ごされますよう心がけて下さい。地域の皆様方には、日頃は赤目まちづくり委員会、赤目市民センターの諸行事に対しあたたかいご理解とご協力を賜っておりますこと厚く御礼申し上げます。

さて、青少年育成部会では、錦生赤目小学校の児童を対象とした日帰りキャンプを7月31日に開催予定でしたが、7月に入り名張市内でも過去最高となるコロナ感染があり、安心・安全を考え、部長・役員で話し合い中止させて頂きました。楽しい夏休みを迎える子ども達にとって残念なことになってしまいました。

また地域活動部会では、3年ぶりに「赤目夏まつり」を8月6日に開催すべく計画を進めてまいりましたが、上記と同様に検討した結果、十分な安心安全が保てないことから秋頃まで延期させていただくことになりました。楽しみにして頂いていた方も多いと思いますが、ご了承いただきたく存じます。なお、次の開催が決まりましたら「赤目まちづくり通信」でお知らせします。

今後計画致します各種行事は、ウィズコロナでの開催となると思いますが、ご理解とご協力を賜ります様お願いいたします。これから大変暑くなってきますが、くれぐれもコロナと熱中症には、充分に気をつけてお過ごし下さい。

富森・重森各部長あいさつ・抱負

青少年育成部会 部長 富森康宏

この度、赤目まちづくり委員会青少年育成部部長を務めることになりました、檀地区の富森康宏(とみもり やすひろ)と申します。よろしくお願いいたします。

2013年度、旧赤目小学校 PTA 会長を務めた時から、赤目まちづくり委員会へ携わらせていただき10年目の今年度、青少年育成部部長という大役を仰せつかり、責任の重さに身の引き締まる思いです。

わたしが思うまちづくり活動とは、自分たちで地域の課題をさがし、自分たちで解決策を見だし、自らが「自分たちのこと」として関われるまちづくり、みんなが活躍できる持続するまちづくり活動ができればと思っております。

今後も他部会との連携をはかり、部員の皆さまにはお力添えをいただきながら、すべての世代の方々と「自分たちのまちは自分たちでつくる」未来思考の赤目を目指して頑張りたいと思います。皆さまのご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

地域活動部会 部長 重森洋志

この度地域活動部をお引き受けしました重森洋志(しげもり ひろゆき)と申します。よろしくお願いいたします。

2022年度地域活動部のテーマを『世代間交流』とし、子どもからお年寄りまで幅広い年齢の活動の場をつくりたいと思います。この地域活動を通じて一緒に活動をした相手に対する『ありがとう』という感謝の気持ちを持てるような取り組みとしていきたいと思っています。

また、これらの活動が子どもたちの健全育成という子どもたち、ひいては赤目町の将来を築き上げる土台を固め、また成長した子どもたちが次の世代に貢献できるような好循環を生み出すことを理想としています。

地域が一丸となって全力で取り組むことにより、『ありがとう』が溢れるまち赤目を目指したいと思います。

竹風鈴づくり開催

7月10日(日)錦生赤目小学校・体育館で青少年育成部(富森部長)主催の「竹風鈴づくり」を開催。昨年に続き2回目となり、環境部・宮本部長の指導のもと、幼児から高齢者まで45名の参加を頂き、楽しく風鈴づくりをしました。糸を通すのが難しく、創意工夫を重ね、素晴らしい作品が完成。秋口には、音色も良くなるとの事です。暑い中、大変お疲れさまでした。



柏原城址現地見学会

赤目市民センター主催「市民大学講座」として、7月16日9時半より天正伊賀の乱終戦の地「柏原城(瀧野城)址現地見学会」を開催。松鹿昭二先生(中世城館調査会会長)の案内で、勝手神社・城跡(土塁・空堀・石落とし・お滝の井戸・櫓跡)を考察しました。

小雨の中25名の参加を頂き、『解説を聞きながら現地を見学するのは、本当に勉強になった。』との参加者の声。また『名張市も史跡保存にもっと力を入れて頂ければ』との声も。



赤目竹あかり SDGs 研修会

7月24日(日)皇学館大学・教育開発センター 池山敦・准教授を迎えて、「サステナブルな地域づくり」をテーマに、10年後もここで幸せに暮らし続けるための講演会を開催しました。当日は、名張市産業部観光交流室 山下室長の挨拶を始めに、30名余りの参加を頂きました。「大変勉強になった。今後、赤目地域のまちづくりに生かしていきたい。」「10年後も元気な赤目にしたい。」など活発な意見が出ていました。



9月よりA4(白黒)5円に。カラーコピー、スキャンング等サービスも行っています。詳細は、市民センターまで。

名張市指定ゴミ袋取扱、紙おむつ専用ごみ袋(無料交付)

特大45リットル10枚480円・大30リットル10枚300円・中20リットル10枚180円・小10リットル10枚80円
紙おむつ専用ごみ袋は、対象者一人当たり30枚以内。

赤目まちづくり委員会
赤目市民センター

ホームページ



赤目まちづくり委員会・市民センターの情報がホームページでご覧いただけます。
※スマホ・携帯電話で左のQRコードを読み取って下さい。

子供も大人も、参加自由

赤目市民センター

夏休み こども映画会

会場 / 赤目市民センター
大会議室

みんな来てね！大人も大歓迎です。

8/11
木

「弱虫ペダル」(112分)

三木康一郎監督。運動が苦手なアニメ好きの高校生・小野田坂道。高校自転車競技部に入部した坂道は、自転車選手として思わぬ才能を開花。“仲間”と共に走る喜びを知る。永瀬廉、伊藤健太郎、橋本環奈、竜星涼出演。
午後の部 / 1時30分～



8/20
土

「煙突町のプペル」(100分)

西野亮廣のプロデュース、ベストセラー絵本「えんとつ町のプペル」をアニメ映画化。ハロウィンの夜、この町に生きる親を亡くした少年ルビッチの前にゴミ人間プペルが現れる。監督は廣田裕介、声・窪田正孝、芦田愛菜、小池栄子、他。
午後の部 / 1時30分～



※日時に○をして下さい。

キリトリ

赤目市民センター・こども映画会に参加します。

8/11(木・祝)

午後の部 13:30

名前: _____ (年)男・女

参加保護者名

※当日参加する保護者のみ記入してください。

8/20(土)

午後の部 13:30

名前: _____ (年)男・女

電話番号:

※屋間に連絡のつく保護者の電話番号を記入してください

8月8日～9月4日までの予定

月	火	水	木	金	土	日
8/8	9	10 ふれあいサロン	11 山の日 夏休み映画会①	12	13 お盆休み・休館	14 星空観察会
15 お盆休み	16	17 ELP健康教室 中止	18 サンサンカレー 中止	19	20 夏休み映画会②	21
22 小学生「お茶会体験」中止	23	24 ふれあいサロン 忍たま広場	25	26	27	28
29	30	31	9/1	2	3	4

<注意> 8/6(土) 赤目夏まつり、8/17(水) ELP健康教室及び 8/22(月) 小学生「お茶会体験」は、中止になりました。

9月の行事予定

- ★9/10(土) 国保特定検診 市民センター・大会議室
- ★9/14(水) ふれあいサロン
- ★9/14(水) 市民センター館外学習「工場見学」中止
- ★9/18(日) 竹細工・竹あかりづくり
- ★9/28(水) ふれあいサロン・忍たま広場

※赤目市民センターでは、コロナ対策として、検温・マスク着用・消毒・換気、名簿の作成など、3密(密集・密接・密閉)を避けて運営しています。しかしながら状況に応じ、中止・延期になる場合がありますので、ご注意ください。

赤目市民センターまつりの開催について

詳細は、未定ですが昨年引き続き本年も「展示」会場を設け開催を予定しています。つきましては多くの皆様の出品・展示をお願い致します。
実施予定日 10月29日(土)～10月31日(月)(3日間)

Vol.31 新・歴史散策紀行…「伊賀・赤目文化遺産」(各区・地域の名所・名品を募集しています。)

「赤目のむかし話 Part.1」

今回より、「赤目のむかし話」をシリーズでお届けしたいと思います。子どもの頃から馴染み深い昔話は、もともとは生活の中から生まれ、口コミによって広がってきた口承文学です。また、それらは貴重な民俗資料として、注目されています。

「むかしむかしあるところに…」と聞くとちょっとワクワクする気持ちになったことでしょうか。皆さんもぜひ、「むかしむかし赤目というところに…」と置き換えて、我が町、赤目のファンタジーを、もう一度楽しんで頂きたいと思います。(平成25年発行「赤目のむかし話」より原文ママ)

「赤い目の牛に乗った不動明王(長坂区・滝)」

今から約1200年もむかしのことじゃ。厳しい修行をする修験道を開始したと言われている役(えんの)小角(おずね)が、赤目の滝の山に入って修行してあったらな、牛に乗った不動明王がやって来た。顔は色黒く、大きな恐ろしい目をして口に二本の鋭いきば、右手に降魔の剣をかざしとった。乗っている牛といったら炎のように赤い目をしていたそうや。不動明王は、しばらく役小角の修業をじっと見ていたんやけどな、そのうち姿を消してしまったそうや。役小角は、この地を不動明王が住む霊地に違いないと感づき、黄竜山(後の延寿院)という立派な寺を建てたんやと。

赤目の地名は、赤い目の牛が不動明王を乗せてやって来たところから名づけられてな、赤目滝と呼ばれているんやと。役小角が修行していた妙法山は、滝の入り口近くに鋭くそびえ立っている山でな、山頂には文字を刻んだ大岩がいくつああって、中にお経が納められているといわれているんやわ。<話・赤目滝のお年寄りより>

「送りオオカミ(星川区)」

むかしむかしのことやつた。中村(箕曲中村)と相楽と青蓮寺と星川の四村の境界になる四つ辻の真ん中でな。身元不明の一人の旅人が行き倒れてあったのや。四村のうち三村の人は、死人を嫌って押し付け合いをしていたんや。「それじゃ、おれたちの村で葬ってあげることにするわ。」見かねた星川の人が申し出てな。そして、旅人を埋葬したのや。それから霊に飲食物を供えてお経をあげる施餓鬼(せがき)というのが始まったのや。それからな。夜遅く星川からこの四つ辻を通過して出かける時には、送りおおかみがついて守ってくれることになったのや。また、よそから星川へ四つ辻を通過して帰る時には、迎えオオカミがついて守ってくれるのや。この送りオオカミと迎えオオカミは、四つ辻で死んだ旅人と伝えられているのや。このオオカミの姿はな。人の目には見えないといわれているのや。<話・宮下修さん 明治36(1903)年生まれ>

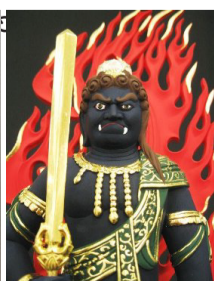
以上の2作をご紹介しました。次号もお楽しみに。



日本昔ばなし



「赤目のむかし話」



不動明王



赤目牛



妙法山



送りオオカミ